

令和3年度 | 2021
教員・職員(FD・SD)活動報告書

郡山女子大学 | 郡山女子大学短期大学部

2022年6月

学園教育充実研究会

目 次

I 学園教育充実研究会〔大会〕 -SDGs を踏まえた特色ある学園を目指して- __3

学園教育充実研究会、大学・短大特色検討委員会、環境委員会 共催

講 演 「尚絅学院大学における SDGs の取り組み」 （オンデマンド配信）

II 各種研修会 __5

1. 大学 家政学部 食物栄養学科

学科セミナー「疫学研究 -飲酒と喫煙-」

2. 障がい学生支援委員会・学生生活部 共催

障がい学生支援研修会「障がい学生支援に向けた学内連携について」

3. ハラスメント防止委員会

ハラスメント防止研修会「ハラスメントについての理解を深める」

4. 不正防止委員会・教務部 共催

SD/FD 研修「学校教育における著作権に関する研修会」

III 事務局職員 外部研修参加記録 __10

総務部・入学事務広報部・教務部・学生生活部・就職部・図書館・学園教育充実研究会（SD 部門）

I 学園教育充実研究会 [大会]

学園教育充実研究会（大会）は、昭和 44 年（1969 年）より、学園の教育力の向上と教職員の相互連携を目的として半世紀近くにわたって実施されてきた教員および職員の研修大会である。

今年度は、大学・短大特色検討委員会、環境委員会との共催で、外部講師による講演および各科・部署ごとのワークショップを企画したが、新型コロナウイルス感染症対策の影響を受け断念せざるを得ず、年が改まった令和 4 年 3 月にオンデマンド形式で実施した。

テーマは「SDGs を踏まえた特色ある学園を目指して」とし、今後、本学園が取り組むべき方向性について改めて認識を深めるとともに、他大学の先進的な取り組みについて学ぶための研修会を実施した。

■日 時 令和 4 年 3 月 16 日（水）～31 日（木） ※動画の視聴期間

■参加者 FD 部門 : 大学教員 37 名 短大教員 41 名
SD 部門 : 事務局職員（高校事務局を含む） 46 名 計 124 名

■実施内容（抜粋）

講師 小島里美 氏（尚絅学院大学事務部次長 兼 教育研究支援課長）

①ショートムービー「尚絅学院大学 SDGs」（約 8 分）

②講演動画「尚絅学院大学の SDGs の取り組み」（約 35 分）

講演内容

(1) はじめに 尚絅学院大学の紹介

・学校法人尚絅学院大学 創立 130 周年（2022 年 11 月）

(2) SDGs とは？

・持続可能な開発目標／SDGs : Sustainable Development Goals

（2015 年 9 月国連サミットで採択。国連加盟 193 か国が 2016 年から 15 年間で達成するために掲げた目標。17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。）

(3) 尚絅学院大学と SDGs

・大学祭におけるカーボン・オフセットの取り組み「エコ大学祭」（2013 年～）

・「里山再生プロジェクト」（2016 年～）

・SDGs マルシェ（2016 年～）

・大学生と考える SDGs（2018 年～）

(4) SDGs 推進のための学内体制

・「尚絅学院大学の Mission -ブランド・ステートメント」（2018 年 5 月）

・尚絅学院大学「中期計画 ～Mission19」より

・尚絅学院大学 SDGs 推進プロジェクト」の立ち上げ（2019 年 10 月）

・「SDGs 活動に関する教育・啓蒙」

(5) 実践事例 ～尚絅 SDGs Action～

(6) 事務局の役割

(7) 現在の課題

(8) まとめ

■アンケート回答期間 令和4年3月16日（水）～4月5日（火）

回答内容（抜粋）

設問 1 第57回学園教育充実研究会オンデマンド配信を視聴しましたか

〔視聴した〕	77人	55%
〔視聴しなかった〕	14人	10%

設問 2 講演内容「尚絅学院大学のSDGsの取り組み」はどうでしたか？

〔有益だった〕	43人	30%
〔やや有益だった〕	35人	25%
〔やや有益でなかった〕	0人	0%
〔有益でなかった〕	0人	0%

設問 3 講演内容についての感想および質問がありましたらご記入ください。

他大学の取り組みを具体的に知ることができて、非常に参考になった。
とても良かったと思います。
とても勉強になりました。後日、内容確認したいと思った時にアーカイブで見ることができたらと思います。
学科や教員が中心となっても良いと思うが、周辺の事務作業、書類作成や連絡など事務を引き受けてくれる部署を設置して負担を分散する必要もある。学内の組織づくり、中心となる部署、協力体制をよく検討しないと継続することは難しいと感じた。学内にと止まらず、地域を巻き込んだ取り組みを発表する場がはっきりすると、学生のモチベーションも上がると思う。
大学全体でSDGsに取り組まれていることが、よく分かった。学内体制づくりや、大学主催の事業として学外も巻き込んだイベントなど参考にしたいと思える内容だった。
SDGsは、地域で共有しやすいテーマであり、本学の建学の精神にもマッチする可能性があると感じた。
課題として挙げられていた授業を越えた学生の主体的取り組みの問題は共通だと思いました。
SDGsという言葉以前の環境教育をおこなった尚絅学院大学の取り組みがよくわかりました。コンパクトな取り組みと情報発信力に本学の取り組みとの違いを感じました。本学園の環境教育および実践活動のほうが多く早くから行われ、さらに評価されているにもかかわらず、後発の尚絅学院大学の取り組みを、学園充実研究会で取り上げた意義を是非、ご説明いただきたく思います。
推進していくためには事務局部署、学生生徒の組織など、組織的な整備も必要であると気づかされた。
意欲に取り組まれており、大変参考になった。活動の様子もわかり、何より意欲的に楽しそうに活動している様子がうかがえて素晴らしいと感じた。
尚絅学院大学のSDGsの取り組みは、学内体制もしっかりとして実施内容も素晴らしいと思いました。SDGsマルシェは、準備は大変でしょうが楽しめる企画だなと思いました。
取り組み内容が盛りだくさんで、何が有益か、焦点が曖昧になっている。
環境を持続させることは大事なことと思いました。しかし、大学が中心となっていく必要性についてはあまりないように思えます。大学の宣伝を目的とした場合は、SDGsの活動は有益と感じます。
尚絅では学生生徒が自分のこととして、自らが取り組んでいるようにみえました。これを本学に置き換えると、どのようにしたら学生自身が自ら率先して取り組み、まとめていくことができるのか、とても大きな問題であるように思えました。
日々の授業にも、地域貢献にも、SDGsの視点が重要であることが、理解できました。

本学においても SDGs に関する取り組みがあるので、それらを視覚的に“見える化”することで意識が高まるのではないかと考えた。また、“見える化”を契機に拡大深化できる方向への展開も必要と考えた。 普段の取り組みが SDGs に必ず関連するのだと、改めて実感しました。本学においても、SDGs との関連性を無意識を意識化するだけで、地域貢献の見える化につながると考えます。PR にもなりますね。 わかりやすくまとめられており理解しやすく、ヒントをもらい具体的に想像することができ有意義だった。 無理なく、身近な事から取り組んで行くことで継続的に進めていくことができると感じました。 大学全体での取り組みに驚きです。 尚綱学院大学の取り組みの様子、学内発信の様子（学生活動の様子）が広報的視点からも参考になりました。 SDGs 活動は、これからの世代を担う人々にとって、とても重要な活動だと考えています。その活動を様々な集団を取り込んで研究し、発表の場を市民(商店街)に広げられていること、さらに子供たちや障がいを持つ人達への取り組みにも共感しました。持続可能な社会の実現に向けて国民の一人ひとりが SDGs を意識して生活できるようにするために、より多くの集団が研究を深め継続的に発信していかなければと感じました。 組織として行うならば、事務部門等できちんとした体制が必要となりそうである。 熱心に取り組まれているので、感心しました。 具体的で本学に置き換えてみることができるものもあり参考になった。

設問 4 SDGs に関して、学内において取り組みたいこと、取り組みそうなことなどがありましたらご記入ください。

本学で現在取り組んでいることを SDGs の視点から整理するだけでも、オープンにできるかなりのリソースがあるのではないかと考える。 ペーパーレス化を進めてはいかがでしょうか。例えば、給料明細の電子化などはいかがでしょうか。 他大学の例を見ていると、案外地域創成学科が取り組んでいる「地域創成プロジェクト演習」のような取り組みが、学生によるSDGs貢献に有効なのではないかと思われます。 本学でも環境をキーワードにした SDGs に取り組んでいるが、学園全体で関わる意識が十分でないと思う。まずは学内で意思の疎通を図り、理念や目的の周知、活動の広がりをもつ体制づくりが必要ではないか。 既に生活科学科で取り組まれているが、オープンキャンパスにおける発表テーマになる。また、学友会主催のフードドライブ事業、さらには、地域創成学科の設置等、実際に取り組まれていると言える。あとは、当該活動を学園全体で組織化するかどうかの問題であると思われる。 環境教育から SDGs という考え方に取って、迎合する必要があるのでしょうか。資源ごみを減らすこと、CO2 排出を減らすための管財部のおこなった暖房法の改善や LED 照明の導入などのさまざまな試みが多数あるにもかかわらず、教員がそれを学生や地域社会に周知する努力が足りなかったのでしょうか。 尚綱学院大学の取り組みであるシラバスに SDGs アイコンを添付することは、学内でも取り組みそうな内容かなと思いました。 学友会でやっているフードドライブ活動をより活発化する。 学科内と地域社会の特性に合うものあれば、活用しても良い。それは当事者の判断にゆだねられる。 もみじ会の大テーマにすると、よいかもしれません。 創立 50 周年の植樹以来、持続可能な自然環境の保全に努め、エコアクション21の認証も得ました。こうした本学らしい取り組みを継続しつつ、障がい学生を受け入れる 2022 年度は、3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、という目標に向かって一層取り組んでいくべきです。 ①学園の学内取り組み、学科の地域貢献、授業内容など、SDGs に関連するものにマークし視覚化する。②

「①」の内容を充実研究会その他(学科・関連部署等)で取り上げ、学園全体や学科単位等で内容を充実拡大深化させる機会を持つ。③大学案内に、SDGs 取り組み紹介のページを設ける。④学友会の「フードバンク」活動を、生活用品や古着などリユース活動に発展させる。⑤紙(印刷物)の削減。各種提出書類の電子化・電子掲示板(学生向け)・タブレット導入等により紙媒体を減らす。

環境委員会でも取り組んでいるので、どこか主軸になる部署を中心に学内全体で共有し、全体で取り組む組織体制が必要かと思います。

担当科目が SDGs のどの項目に関連するものなのかをシラバスに記載するなどして、普段の学びから SDGs との関連を意識づける。もみじ会の展示に SDGs の関連目標・ターゲットを掲げ、パンフレットにも記載する。

今行っている様々な活動を SDGs の視点で分類したら、何を本学は多く取り組んでいるのだろうかに興味を持ちました。

本学は様々な場所や形で地域連携活動の取り組みを行っておりますが、この視点から下記目標をについて、各学科と事務局が合同で取り組んではいかがでしょうかと思いました。2.飢餓をゼロに(食物栄養学科・健康栄養学科) 3.すべての人に健康と福祉を(生活科学科 社会福祉専攻) 4.質の高い教育をみんなに(生活科学科・幼児教育学科) 11.住み続けられるまちづくりを(地域創成学科)

自分の置かれている立場から、何ができるのかしっかりと考えて、確実に実践していきたいと思います。

SDGs についての講演などを実施して学生に理解を促す。里山再生などのテーマは本学も植樹などをしているので、地域活動として何かできるかもしれないと感じた。

設問 6 総合的に見て第57回学園教育充実研究会のテーマや内容はどうでしたか？

[有益だった]	44 人	31%
[やや有益だった]	30 人	21%
[やや有益でなかった]	1 人	0%
[有益でなかった]	0 人	0%

設問 7 今後、取り上げたい研修内容等があればお書きください。

研究室の整理整頓、物の管理や時間管理などの講演会を開いていただけるとありがたいです。

個人情報保護・ハラスメント対策

大学運営の継続性を担保すべく、組織運営の合理化について学びたい。評価に関する諸業務が拡充する一方で、それが合理化に結びついて、業務がスリム化実質化しているという実感に乏しい。

教員の質の充実が必要です。これまで教育評価法や時流に合わせたテーマを研修で取り上げてきましたが、もっとも重要な教員の研究活動はどうなっているのでしょうか。充実研究会は教育と研究の両者を取り上げることでおたがいに切磋琢磨することが必要なのではないのでしょうか。

3 月は業務多忙につき、動画を視聴するゆとりが無いので、従来の 8 月ころの実施を希望したい。

入学者のスキルも変化しているので、それに合わせた教育方法をどのようにしたら良いのかについての講演をお願いいたします。

本学の事業が継続するために、教職員は何をすべきかを定める内容のものがあるとよいと思いました。

障がい学生を受け入れる学内のバリアフリー化、そして、障がい学生と向き合う心のバリアフリー化。

書類整理術について学べる研修会等があれば参加してみたいです。(整理することで仕事効率が上がるなど)

広報活動関連で、各学科と事務局との連携等、他校における広報活動の様子について。

Ⅱ 各種研修会

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度からは、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。コロナ禍のためオンラインによる開催も実施したが各委員会の研修会は大幅に減少した。

	日程	タイトル および 講演者	主 催	出席(人)
1	12/1	第 1 回 食物栄養学科セミナー 「疫学研究 -飲酒と喫煙-」 講師 伊藤央奈 氏（大学食物栄養学科 准教授）	大学 家政学部 食物栄養学科	25
2	1/26	障がい学生支援研修会 「障がい学生支援に向けた学内連携について」 講師 田中雅子 氏（帝京平成大学 准教授）	障がい学生支援委員会・ 学生生活部 共催	49
3	1/20-2/3	ハラスメント防止研修会 「ハラスメントについての理解を深める」 講師 川村鯉江 氏 （名古屋大学ハラスメント相談センター相談員）	ハラスメント防止委員会 ※オンライン配信	82
4	3/17-31	SD/FD 研修 「学園教育における著作権に関する研修会」 講師 和知 剛 氏（図書館運営委員会 副委員長）	不正防止委員会・教務部 共催 ※オンデマンド配信	63
			総計	219

各種研修会【報告】

1. 令和3年度 大学 家政学部 食物栄養学科 第1回学科セミナー「疫学研究－飲酒と喫煙－」

「疫学研究－飲酒と喫煙－」と題し、疫学研究から得られた事例に基づいて、飲酒と喫煙の側面から発表を行った。

疫学研究とは、地域者社会や特定の集団を対象として、健康に関する事象（病気の発生状況など）の頻度や分布およびリスク要因を明らかにし、効果的な対策を模索することを目的とした学問である。昨今の新型コロナウイルス感染症の予防対策においても重要な役割を担っている。

また、「喫煙すると肺がんになりやすい」、「食塩を摂りすぎると高血圧になる」などの結果は、疫学研究によって明らかになったことである。飲酒については、「飲酒量と生活習慣との関連」、喫煙については、「*CYP2A6*遺伝子多型と喫煙との関連」の事例を紹介した。25名の参加があった。

- 主 催 大学 家政学部 食物栄養学科
- 日 時 令和3年12月1日（水） 16：10～17：00
- 会 場 創学館3階533講義室
- 参加者 大学・短期大学部 教職員 合計25名

■実施内容 および 講師

- (1) 講師 伊藤央奈 氏（家政学部 食物栄養学科 准教授）
- (2) 内容（抜粋）
 - ①飲酒 飲酒量と生活習慣との関連事例
 - ②喫煙 *CYP2A6* 遺伝子多型と喫煙との関連事例



2. 令和3年度障がい学生支援研修会「障がい学生支援に向けた学内連携について」

本学では、2014年度より「障がい学生支援委員会」が発足し、各学科や学生生活部、教務部、入学事務・広報部、就職部と連携しながら、障がい学生の支援を行ってきた。2020年には「障がい学生支援規程」が策定され、学内における支援の体制整備が進められているところである。

一方で、この支援の流れには乗らないで、支援を必要とする学生の存在も表面化しており、教職員一人一人の障がい学生理解と支援に関わる資質の向上が求められている。そこで、この研修会では、外部講師を招いて障がい学生支援に向けた学内連携について研修し、教職員の障がい学生支援のレベルアップを目指した。なお、新型コロナウイルス感染防止のため本研修会はオンラインによる集合研修とし、さらに密を回避するために会場を2か所に分散して実施し、合計49名が参加した。

- 主 催 障がい学生支援委員会・学生生活部 共催
- 日 時 令和4年1月26日（水） 14：30～16：30
- 会 場 創学館2階521講義室・83年館3階831講義室
- 参加者 大学・短期大学部 教職員 合計49名

■実施内容 および 講師

(1) 講師 田中雅子 氏（帝京平成大学 准教授）

(2) 内容（抜粋）

- ①はじめに 今日のゴール
- ②ペアワーク（自己紹介「4つのコーナー」）
- ③「ちがい」に気づく・「ちがい」を知る
- ④郡山女子大学並びに郡山女子大学短期大学部 障がい学生支援規定より
- ⑤障がい学生支援における「連携」とは？
- ⑥各事例（肢体不自由学生）で学内連携を考える
- ⑦学内連携のコツ
- ⑧絵本「レッド あかくてあおいクレヨンのはなし」
- ⑨最後に



3. 令和3年度ハラスメント防止研修会

ハラスメント防止委員会では、学園全体の教職員を対象とする研修会を年1回開催しているが、今年度はコロナ禍2年目であり感染拡大防止のため外部講師による講演会開催を断念し、ハラスメント防止に関する専門家に動画作成を依頼してオンデマンドでの研修とした。グループウェアを活用して全教職員に動画提示期間内の視聴を呼び掛けた。

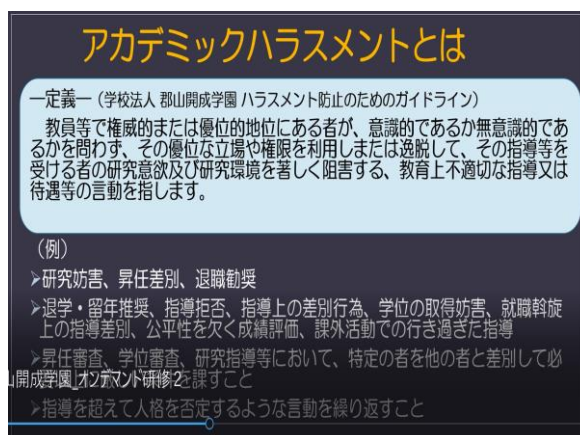
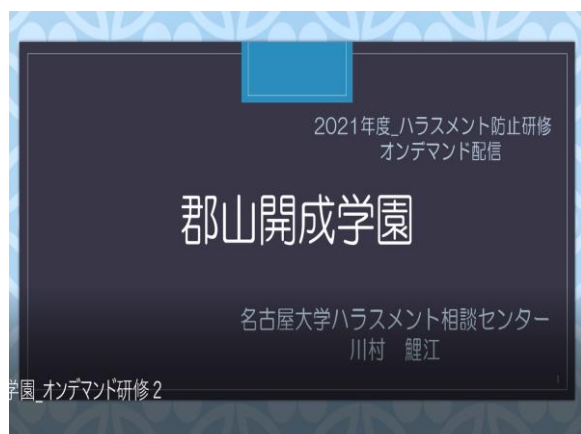
期間は当初2週間に設定したが、その後3週間に延長し82名が視聴した。

- 主 催 ハラスメント防止委員会
- 日 時 令和4年1月20日(木)～2月10日(木) ※オンデマンド視聴
- 参加者 大学・短期大学部・附属高等学校・附属幼稚園・家庭寮 教職員 合計82名

■実施内容 および 講師

- (1) 講師（動画作成者）：川村鯉江 氏（名古屋大学ハラスメント相談センター相談員）
- (2) 内容（抜粋／令和3年度ハラスメント防止研修会_動画配信）
 - ①ハラスメントについて理解を深める
 - ②判例紹介
 - ③事例を通して考える
 - ④防止のためにできること

○視聴後のアンケート：川村氏が作成した Google フォームのアンケートに協力を求めた。



4. SD・FD 研究会「学園教育における著作権に関する研修会」

教務部と不正防止委員会では、教職員を対象に学校教育における著作権に関する研修会をオンデマンド方式で年度末に実施している。今年度で 3 回目の研修となる。今年度の講師も引き続き図書館司書係長の和知 剛 先生にお願いした。研修内容を予め録画したものをオンデマンド方式で配信し、視聴期間を令和 4 年 3 月 17 日（木）～31 日（木）とした。視聴期間内に 63 名が視聴した。

■主 催 不正防止委員会・教務部 共催

■日 時 令和 4 年 3 月 17 日(木)～3 月 31 日（木） ※オンデマンド視聴（約 45 分）

■参加者 大学・短期大学部 教職員 合計 63 名

■実施内容 および 講師

(1) 講師：和知 剛 氏（図書館運営委員会副委員長・大学図書館司書係長）

(2) 内容（抜粋）

①著作権法における権利

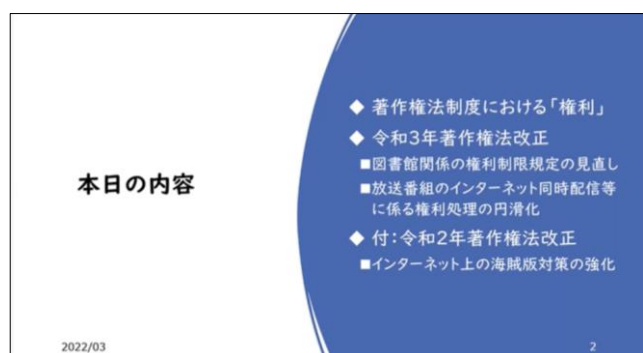
- ・著作物利用は作者の承諾（契約）が必要
- ・作者の了解を得ずに利用できる場合について

②令和 3 年度著作権法改正について

- ・図書館関係の権利制限規定の見直し
- ・放送番組のインターネット同時配信等に係る権利処理の円滑化
- ・法改正の背景について

③参考資料

- ・令和 2 年度著作権法改正
インターネット上の海賊版対策の強化



Ⅲ 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により外部団体主催の研修会開催が激減したが、今年度はオンライン開催に切り替える団体も増えてきた。しかし、事務局職員の外部研修への参加機会は減少したままであり回復していない。

件 名	主 催	期 日	会 場	出席
【総務部】 1. 2021 年度河合塾グループ IR セミナー 大学教職員のための初歩からの IR 講座	河合塾グループ	2021/9/22 2021/12/8 2022/3/1	オンライン	1 名
【入学事務・広報部】 1. 令和 3 年度 私立短期大学入試広報担当者研修会	日本私立短期大学協会	2021/12/16	オンライン	1 名
【教務部】 1. 令和 3 年度大学教務部課長相当者研修	日本私立大学協会	2021/10/11～15	オンライン	1 名
2. 私立大学教育研究充実協議会	日本私立大学協会	2021/11/30	オンライン	1 名
3. 動物実験の外部検証 令和 4 年度の実施に向けた事前説明会	公益財団法人 日本実験動物学会	2022/1/28	オンライン	1 名
【学生生活部】 1. 令和 3 年度（通算第 66 回） 学生生活指導部課長相当者研修会	一般社団法人 私学研修福祉会	2021/7/5～8	オンライン	1 名
2. 令和 3 年度 私立短期大学学生生活指導担当者研修会	一般社団法人 私学研修福祉会	2021/11/24	オンライン	1 名
3. 令和 3 年度東北地区学生指導研修会	東北地区 学生指導研修会	2021/12/13・14	オンライン	1 名
【就職部】 1. 令和 3 年度就職部課長相当者研修会	一般社団法人 私学研修福祉会	2021/11/17	オンライン	1 名
2. 令和 3 年度東北地区学生指導研修会	東北地区 学生指導研修会	2021/12/13・14	オンライン	1 名
【図書館】 1. 第 28 回福島県内大学図書館連絡協議会 実務者研修会	福島県内大学図書館 連絡協議会	2021/12/7～20	オンライン	2 名
【学園教育充実研究会 SD 部門】 1. SD セミナー 大学職員のための プロジェクト・マネジメントセミナー	(株) 早稲田大学 アカデミックソリューション	2021/9/15	オンライン	1 名
【今期該当なし】 事務局長・経理部・管財部・保健室・高校事務室・附属幼稚園・家庭寮				

ひ と こ と

郡山女子大学副学長 紺野 信弘

人類が新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われて 2 年が経過した。わが開成学園もこの惨禍を免れることはできなかったが、幸いにも学生、教職員の間に最悪の事態は発生していない。感染症に対する学園の徹底した予防対策が奏功しているといえよう。2 年目の今年、令和 3（2021）年度は昨年度の経験もあり、オンライン授業などに対しては学生と教職員両者にだいが慣れがでてきたように思われる。しかし、予防接種による副反応により授業を休まざるを得なくなったり、校外（学外）実習に参加するために PCR 検査を要求されたりと学生の負担も相当なものであった。また新入生の学外オリエンテーションや「もみじ会」の一般公開の中止、教養講座が延期あるいはオープンキャンパスでの各学科での催しが予定通りできなかったことなど、コロナ前とは大きく趣を異にする 1 年であった。

さて「大学教育オンライン 2 年度」はこのように多難で、変革を求められる年となったが、学園教育充実研究会は種々の研究会を企画、共催してくれた。オンデマンド形式で実施された研修（本）大会のテーマは「SDGs を踏まえた特色ある学園を目指して」であった。他大学の先進的な取り組みについて学ぶ研修会となり、あらためて SDGs (Sustainable Development Goals)（持続可能な開発目標）とは、何かを考える良い機会となった。2015 年 9 月の国連サミットで採択され、「17 の大きな目標と、それらを達成するための具体的な 169 のターゲット」で構成されており、「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなで 2030 年までに解決していこう」という計画・目標のことである。

講演内容についてのアンケートによると視聴したほとんどの人は「有意義だった」と回答している。多くの感想や質問が寄せられており、SDGs に対する関心の高さが感じられた。本学園でも環境教育や実践活動は以前から行われており、別の機会にこれらの取り組みについてもまとめて報告していただきたいと思います。SDGs は多岐にわたる大テーマであることから、今回の研修会を参考に本学園では環境問題を中心に「目的」「目標」を明確にして取り組むと良いのではないのでしょうか。

本年度に開催された研修会としては①食物栄養学科セミナー「疫学研究-飲酒と喫煙-」②障がい学生支援研修会「障がい学生支援に向けた学内連携について」（オンライン集合研修）③ハラスメント防止研修会「名古屋大学ハラスメント相談センター相談員」（オンデマンド視聴）④SD・FD 研修会「学園教育における著作権に関する研修会」（オンデマンド視聴）などである。感染症予防対策の関係で③と④はオンデマンド形式になったが、いずれも重要なテーマであり繰り返し視聴できるメリットもあり貴重な研修となった。①は通常の対面方式で、健康に関わるテーマで行われたが、参加者がやや少なかったのは残念であった。

次年度も今日的テーマで研修会が開催されることを期待したい。

本年度の FD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

今年度もコロナ禍のもと、FD・SD 活動に苦労した年度であった。今年度の FD・SD 活動も、3 密を避けるために活動の自粛、あるいは活動規模の縮小を余儀なくされ、活動の実施方法について悩みながら、教職員の皆様に役に立つ企画について検討を重ねた。

そのような状況下での FD・SD 活動となったが、学園教育充実研究会の主要な FD・SD 活動である（１）授業評価アンケート、（２）授業公開、（３）研修会、（４）第 57 回学園教育充実研究会（大会）について、今年度の活動を振り返ってみる。

（１）授業評価アンケートについては、7 月までに WEB 授業評価アンケート結果のフィードバックについて検討する計画を立てた。これについて実施時期は 11 月と遅れたが、教職関係の授業は教職課程推進室の室長に、共通基礎科目の授業は教養・キャリア委員会の委員長に授業評価アンケートの結果をフィードバックすることを決定した。授業改善について学生の代表と FD 部門の委員で参画する FD 活動は、学生を招集しなければならないため、新型コロナウイルス感染防止の観点から昨年度と同様に今年度も行わなかった。

（２）研修会については昨年度同様、新型コロナ感染防止を考慮しながら研修会を実施することとし、教職員の研修会参加を促すために設けていた参加下限設定は、今年度も行わなかった。昨年度の研修会実施回数は 5 回であったが、今年度の研修会の実施回数は 4 回にとどまり、オンライン、オンデマンド形式での研修会に加え、対面での研修会も開催され、総計で 219 名の教職員が参加した。

（３）授業公開については、新型コロナ感染防止の観点から今年度も実施を見送った。

（４）第 57 回学園教育充実研究会（大会）については、昨年度同様、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し年度末まで実施を延期した結果、令和 4 年 3 月 16 日～31 日を視聴期間とし、オンデマンドでの開催に至った。今年度の大会テーマは「SDGs を踏まえた特色ある学園を目指して」とし、FD・SD の合同研修会とした。「尚絅学院大学の SDGs の取り組み」という演題で、尚絅学院大学事務部職員による研修を実施した。研修動画を視聴し、本学園が取り組むべき方向性について改めて認識を深めるとともに、他大学の先進的な取り組みについて学ぶための有意義な研修内容であったのではないかと。実施後のアンケートにおいて、98.0%の肯定的評価（有益、やや有益を併せた割合）を獲得した。

以上、4 つの今年度の活動に対して、次年度へ向けた改善を下記に示す。

（１）授業評価アンケート結果を基に、授業改善について学生の代表と FD 部門の委員で参画する FD 活動の実施は、新型コロナウイルス感染状況を鑑み実施の有無を検討する。実施する際は、学生のインタビュー人数を含めた実施内容について検討する。

（２）研修会、（３）授業公開、（４）学園教育充実研究会（大会）については、次年度も新型コロナウイルス感染状況を鑑み実施方法について検討する。

次年度へ向け、新しいスタイルでの FD・SD 活動の展開について更に検討を重ね改善を図っていきたい。

令和3年度(2021) 学園教育充実研究会委員（大学・短大部門）

部 門	委 員	所 属
FD 部門	磯部 哲夫（委員長・FD 部門 主任）	短期大学部 幼児教育学科
	岡部 聡子（FD 部門 副主任）	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 生活科学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 健康栄養学科
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	松田 理香	短期大学部 地域創成学科
SD 部門	横田 英隆（SD 部門 主任）	経理部
	加瀬 洋（SD 部門 副主任）	管財部
	安齋 文明	管財部
	佐藤 利枝子	教務部
	平野 由香子	経理部
	本多 泰治	就職部
	阿部 真澄	総務部
	小橋 健人	高校事務室
事務担当	宗形 岐恵	教務部